

交流拠点を活用 歴史や仕事知る 富山

待ちに待った夏休み。でも、毎年頭を悩ませるのが自由研究。そんな子供のために、富山市のNPO「富山観光創造会議」がうってつけの体験学習イベントを開催している。題して「自由研究をやっちゃおうin みんなのまち」。地域の交流拠点「まちの駅」を活用して、郷土の歴史や様々な仕事について学べる企画だ。

「郷土のことを知らない子供が増えている。まちの駅での体験学習を通して、郷土愛を育みたい」。同NPOが2年前に始めた動機だ。まず寿司作り体験や、葉売りの歴史についての勉強

などのコースがあり、今年は2、5、12日に県内の14か所で開かれる。

3日には「はたらく車の仕事体験」と題して、まちの駅でもある観光バス会社「中部観光」(富山市黒崎)を、富山市や高岡市の男子

小学生6人が訪れた。バスの運転手に必要な免許の種類や車体の色の意味などについてクイズも交えて学び、水道ホースにつなげた柄の長いブラシで車体を洗う体験などをした。

富山市立新保小4年の広沢拓巳君(9)は「バスの免許の説明や、観光バスに乗って空港まで行ったのが面白かった。自由研究はこれで作ります」と話していた。



教育ルネサンス

夏休み



バスの洗車を体験する小学生(富山市黒崎で)